

I 令和6年度の本校の取組

『学び合い』本気で学習する子を育てます。
・主体的・対話的で深い学び

『認め合い』本気で相手を思いやる子を育てます。
・学校教育全体での道徳教育

『開き合い』居心地のよい環境を作ります。
・安心安全な環境、居場所づくり

『高め合い』心身共にたくましい子を育てます。
・教科体育の充実

『結び合い』家庭や地域と共に学ぶ学校を作ります。
・コミュニティスクールの進化（学校運営協議会との連携）

咲かそう蒲桜

やさしさ やる気 夢 いっぱい

II 自己評価（左から児童、保護者、職員）

	児童アンケート質問項目	前期	後期
1	友達や先生、家族との関わりを深め、自分らしさを大切にしている＜関わり＞	92%	92%
2	より良い自分になるために、自分で考えて判断したり、選んで決めたりしている＜自己決定＞	88%	88%
3	蒲の地域を学ぶことで、蒲の地域のよさが分かる＜地域愛＞	88%	90%
4	めあてをもって、意欲的に学習している＜主体的、対話的で深い学び＞	90%	89%
5	人の話をよく聞こうとし、自分の考えを導んで伝えようとしている＜主体的、対話的で深い学び＞	89%	88%
6	積極的にタブレット端末を活用して学習している＜積極的なICTの活用＞	90%	87%
7	自他の生命を大切に、思いやりをもって人と接している＜学校教育全体での道徳教育＞	94%	93%
8	ﾎﾞｰｸﾞﾗｰ遊び、ﾎﾞｰｸﾞﾗｰ清掃、ｸﾗﾌﾞ など他学年の人とも仲良く活動している＜異学年交流＞	93%	93%
9	目標をもって、進んで運動に取り組んでいる（スポーツフェスティバル含む）＜教科体育の充実＞	91%	92%
10	ルールを守り、けがや事故なく安全に生活している＜安全指導＞	93%	92%
11	規則正しい生活習慣の大切さを理解し、毎日の生活に生かしている＜健康教育の充実＞	91%	89%
12	学校で安心、安全に過ごしている＜安心、安全な環境＞	92%	91%
13	困ったことがあった時に先生に相談できる＜いじめや不登校の未然防止＞	93%	93%
14	地域の方が講師やボランティアで学習に関わることで意欲が高まる＜コミュニティスクールの進化＞	88%	89%
15	ホームページやブログ、さくら連絡網や学校だよりによって学校の様子がよく分かる＜情報発信＞	85%	89%

	保護者アンケート質問項目	前期	後期
1	友達や先生、家族との関わりを深め、自分らしさを大切にしている＜関わり＞	95%	96%
2	より良い自分になるために、自分で考えて判断したり、選んで決めたりしている＜自己決定＞	85%	85%
3	蒲の地域を学ぶことで、蒲の地域のよさが分かる＜地域愛＞	83%	87%
4	めあてをもって、意欲的に学習している＜主体的、対話的で深い学び＞	75%	75%
5	人の話をよく聞こうとし、自分の考えを導んで伝えようとしている＜主体的、対話的で深い学び＞	77%	77%
6	積極的にタブレット端末を活用して学習している＜積極的なICTの活用＞	78%	85%
7	自他の生命を大切に、思いやりをもって人と接している＜学校教育全体での道徳教育＞	94%	95%
8	ﾎﾞｰｸﾞﾗｰ遊び、ﾎﾞｰｸﾞﾗｰ清掃、ｸﾗﾌﾞ など他学年の人とも仲良く活動している＜異学年交流＞	89%	90%
9	目標をもって、進んで運動に取り組んでいる（スポーツフェスティバル含む）＜教科体育の充実＞	90%	87%
10	ルールを守り、けがや事故なく安全に生活している＜安全指導＞	96%	96%
11	規則正しい生活習慣の大切さを理解し、毎日の生活に生かしている＜健康教育の充実＞	86%	86%
12	学校で安心、安全に過ごしている＜安心、安全な環境＞	94%	96%
13	困ったことがあった時に先生に相談できる＜いじめや不登校の未然防止＞	96%	97%
14	地域の方が講師やボランティアで学習に関わることで意欲が高まる＜コミュニティスクールの進化＞	83%	87%
15	ホームページやブログ、さくら連絡網や学校だよりによって学校の様子がよく分かる＜情報発信＞	87%	88%

	教師アンケート質問項目	前期	後期
1	友達や先生、家族との関わりを深め、自分らしさを大切にしている＜関わり＞	100%	94%
2	より良い自分になるために、自分で考えて判断したり、選んで決めたりしている＜自己決定＞	80%	83%
3	蒲の地域を学ぶことで、蒲の地域のよさが分かる＜地域愛＞	90%	86%
4	めあてをもって、意欲的に学習している＜主体的、対話的で深い学び＞	85%	81%
5	人の話をよく聞こうとし、自分の考えを導んで伝えようとしている＜主体的、対話的で深い学び＞	63%	69%
6	積極的にタブレット端末を活用して学習している＜積極的なICTの活用＞	83%	86%
7	自他の生命を大切に、思いやりをもって人と接している＜学校教育全体での道徳教育＞	88%	86%
8	ﾎﾞｰｸﾞﾗｰ遊び、ﾎﾞｰｸﾞﾗｰ清掃、ｸﾗﾌﾞ など他学年の人とも仲良く活動している＜異学年交流＞	90%	78%
9	目標をもって、進んで運動に取り組んでいる（スポーツフェスティバル含む）＜教科体育の充実＞	98%	89%
10	ルールを守り、けがや事故なく安全に生活している＜安全指導＞	41%	42%
11	規則正しい生活習慣の大切さを理解し、毎日の生活に生かしている＜健康教育の充実＞	83%	83%
12	学校で安心、安全に過ごしている＜安心、安全な環境＞	73%	61%
13	困ったことがあった時に先生に相談できる＜いじめや不登校の未然防止＞	95%	94%
14	地域の方が講師やボランティアで学習に関わることで意欲が高まる＜コミュニティスクールの進化＞	90%	92%
15	ホームページやブログ、さくら連絡網や学校だよりによって学校の様子がよく分かる＜情報発信＞	93%	94%

III 分析・考察

- ・目指す子供像「自己決定」「関わり」「地域愛」が学校づくりのキーワードとなり、児童及び教師に浸透してきたことで、学校全体に一体感を生み出すことができた。
- ・地域に出でる活動や地域人材を活用した活動、外部講師を招いての講話や体験会を教育計画に取り入れることで、児童の学習に対する意欲を高めることができた。
- ・学校や家庭で積極的にICTの活用を図り、個に応じた学習（個別最適な学び）を進めることができた。ICTを活用しての互いに学ぶ学習（協働的な学び）には課題がある。
- ・多様性を理解して互いに認め合ったり支え合ったりしていける環境づくりに努めていることが、いじめや不登校の未然防止、早期発見につながっていると考える。
- ・道徳科授業に力を入れ、学んだことを日常生活に生かすことで思いやりのある児童が育ってきている。異学年交流についてはボプラ活動以外の取り組みを考える必要がある。

IV 学校運営協議会における学校関係者評価

- ・全体的に、どの項目も児童の達成感を強く感じる。
- ・安全面について、教師が感じているほど子供は達成が低いとは感じておらず、もっと児童に働きかけていく必要がある。
- ・児童の安全意識を高めていくことが大切である。
- ・大事に至る前に、早期に対策をしていじめを防止するように努めているのが良い。
- ・防犯面も踏まえ、挨拶を意識して生活し、地域の人にも積極的に挨拶ができるようにと考える。

V 今後の改善方策

- ・目指す子供像「自己決定」「関わり」「地域愛」を育むために、地域人材・地域資源などを活用し、多様な面から協働的にアプローチをすることで教育活動の質を高めていく。
- ・ICTを活用し、子供同士や地域の方々など多様な他者と協働しながら資質・能力を育成することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。
- ・ペア学年や学級を設定するなど、年間を通した異学年交流ができるようにすることで、自主性や主体性を育て、関わりがより深まる取り組みを推進していく。
- ・教師がよりよい授業づくりに集中でき、一人一人の子供と向き合う時間を確保することでいじめや不登校の未然防止に努める。そのために、教育活動の精選をさらに進めていく。
- ・児童のけがが非常に多いことが課題である。教師だけでなく、児童自らが校内・校外生活の安全について考える機会を設定することで安全に対する意識を高めていきたい。